

ありがとう

【教育目標】

- 自分の可能性に挑戦し
人のために動ける児童の育成

【合い言葉】

- 「ありがとう」でつながる大畑小

発行 森下秀一

みんな笑顔で みんなが 輝いた 大畑小 アオバズクフェスティバル

アオバズクフェスティバルには、たくさんの皆様にご参加いただき感謝申し上げます。

お仕事や用事等で、ご参加になれなかった方もいらっしゃると思います。そこで、各学年の発表の様子や私の感想を掲載いたします。(写真も掲載しますが、個人が特定されないよう画質を落としています。ご了承ください。)

運営委員会が主催した代表委員会で、今年のスローガンは「みんな笑顔で みんなが輝く 学習発表会にしよう」に決定しました。



このスローガンの達成に向けて、それぞれの学年では、短い期間で、しっかり練習に取り組む、私たちに感動を与えてくれました。(9月の新型コロナウイルス感染症第5波の影響で開催の決定までに時間がかかった上に、予防の観点から練習のやり方も制限された状態での練習になりました。しかし、子どもたちはよくがんばりました。)

私は1週間前に中間発表を見せてもらいました。

その時も完成度が高くて驚かされましたが、当日はどの学級もその時よりレベルの高い発表ができていました。

子どもたちの一生懸命に取り組む姿や成長の姿で、私も思わず笑顔になりました。

学年ごとに発表の様子や感じたことをお伝えします。



1年生の「大畑小オリンピック2020」は、自己紹介からとても素敵でした。一人一人が個性的な自己紹介をできていて、素晴らしい発表でした。

その後は、自分たちの得意なことをグループごとに発表しました。「早口言葉」、「算数の2とび、5とび、10とび」、「一回転ポーズ」、「踊り」、「体操」、「なわとび」と、次々に大畑小オリンピックにふさわしい競技を見せてくれました。

特に、体操やなわとびでは、高学年でも難しい技に挑戦したり、失敗しても何度でも挑戦したりする姿がとてもかっこいいと思いました。

「とんくるりん ぱんくるりん」の演奏も上手にできました。

1年生の一生懸命な姿と成長した姿に感動しました。





2年生の発表は、「お手紙〜みんな友だち〜」でした。
2年生は、大畑小で一番少ない人数なのに、一人一人の声がよく出ていて力強さと表現力の高さを感じました。
この物語は、まだ一度も手紙をもらったことのないがまくんとかえるくんの会話を中心に物語が進んでいきます。
2年生のかえるくんたちは、がまくんを元気づけるために、楽しいことにたくさん挑戦しました。最初は「打楽器パーティ」、次は「かけ算九九」でした。2年生は難しいかけ算九九もよく覚えていて、曲に合わせて六の段まで発表し、その後は曲なしで大きな声で九の段まで発表できました。九九の歌は応援団の声を聞いているようで迫力がありました。後半はマット運動やなわとび、野菜の歌で楽しみました。次の日、がまくんに初めてのお手紙が届き、ハッピーエンドで終わりました。一人お休みの友達がいたのですが、みんなでカバーし合い、一人一人が主役として輝いていました。



3年生の発表は「三年とうげ〜おじいさんとすてきさがしの旅へ」でした。
この物語は「三年とうげで転んだならば、三年きりしか生きられない」という言い伝えにおびえるおじいさんに、トル・トリが「すてき玉を3つ集めると願いが叶うよ」と教え、すてき玉を見つける冒険をするという、とても素敵なお話でした。
その冒険の中で、大畑学で学習したことを上手な演技やクイズで分かりやすく伝えることができました。特に、おじいさん役をした3人は名演技で、会場を盛り上げてくれました。
当日は大畑駅の名誉駅長である中村憲司様にもお越しいただきました。子どもたちの演技を見て、中村さんも喜んでおられました。
おじいさんとみんなは、人吉・大畑、家族、こども王国保安官の皆さん、大畑小学校という宝に気付き、すてき玉を3つそろえました。
最後の「ありがとうの花」の歌では、3年生の声がとてもきれいで心にしみました。



4年生の発表は「フクシエモンといっしょに福祉についてもっと知ろう」でした。
大畑学で学んでいる福祉のことについて、劇やクイズを通して詳しく説明してくれました。
フクシエモンを中心に、それぞれの役の4年生が、「白杖」、「点字ブロック」、「盲導犬」、「点字」、「ピクトグラム」、「バリアフリー」、「補助犬」、「パラアスリートやパラリンピック」等について、次々に教えてくれました。よくこれだけたくさんの情報について調べ、覚えてしまったなあと感心しました。
情報の中には、私も知らなかった情報があり、大畑学でしっかり学習していることが伝わってきました。

最後の「チャレンジ」の歌は、4年生らしいパワフルな歌で、4年生の勢いそのまま伝わってきました。たくさんパワーをもらいました。



世界がひとつになるまで

プログラムA
5年生

5年生の発表は、「世界がひとつになるまで」でした。内容は、集団宿泊教室や水俣の学習で学んだこと、環境学習を通して学んだことからの5年生のメッセージでした。

実を言うと、水俣病に関する発表は非常に難しく、中途半端な発表をしてしまうと、かえって水俣病に関する差別や偏見を生んでしまいます。

どうすればや自分たちの伝えたいことを見ている人に伝わるのか最初の原稿から何度も書き直して発表してくれました。

保護者の皆様に、胎児性水俣病患者として生まれた永本さんが病气や差別に負けず、支えてくれる仲間と一緒に懸命に生きていらっしゃる姿が伝わったら幸いです。

5年生は、水生生物調査や水の学校など、外部講師の先生方から指導していただき、本物に触れる機会をたくさんもっています。それだけに、環境問題について力強いメッセージを発信してくれました。

最後の「世界がひとつになるまで」の歌声もとても美しかったです。



ナガサキからのメッセージ
この命を大切に

プログラムB
6年生

6年生の発表は、「長崎からのメッセージ～この命を大切に～」でした。

今年は新型コロナウイルス感染症流行のために、長崎への修学旅行はできませんでした。

そのため6年生教室でオンライン学習を行いました。昔は考えられなかったこれからの学習の一つです。

オンライン学習では、被爆された下平作江さんからお話をうかがいました。

それをもとに戦争の悲惨さと平和の大切さを訴えてくれました。自分たちにとって、平和とは何かを具体的に考え、これからどう

生き行けばよいのか、5年生同様、力強くメッセージを伝えてくれました。

6年生の発表で特長的だったのは、メッセージを伝える人以外は全く動かなかったことです。動かないという演技をしていたのです。会場中がしいんとなりました。さすが6年生ですね。



アオバズクフェスティバルは、子どもたちができるようになったこと、わかったこと、成長したことを一生懸命伝えることができました。それぞれの学年とても立派な発表ができました。

保護者の皆様、改めてお礼申し上げます。

たくさんの皆様に、ご参観いただきありがとうございました。

それぞれの学年に相応しい発表内容で、6年間の成長の過程が見て取れる発表だったのではないかと、校長として自負しています。

大畑小は、小さな学校ではありますが、小さいからこそ、一人一人にとって大きな学びが得られる学校でありたいと思っています。

保護者の皆様には、今後とも引き続き大畑小へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

児童の皆さん、素敵な発表をありがとうございました。